

伊勢 勢 みた ず ほ の
うだ った の JA !?
ぞ

JA新潟みらい

vol.12

JA新潟みらいの特産品「いもジェンヌ」は、スイーツをはじめ、いろいろな料理に使われています。産地では、味はもちろん、安心・安全な農作物作りに力を入れています。

GAP活用し、
安心・安全な農作物作りを実践

いもジェンヌは、JA新潟みらい管内の新潟市西区の海岸砂丘地帯で栽培された「新潟砂丘さつまいも(紅はるか)」のことで、甘くてしっとりした食感が特長です。

栽培に当たり、新潟西かんしょ



(左から)伊勢さん、小竹部会長、本間副部会長、朝妻さん。山積みコンテナには、熟成中の「いもジェンヌ」がぎっしり。

部会では、いつ、どのくらい肥料を与えたかなどを細かく記帳。それを西グリーンセンターの朝妻健治さんと共にチェックし、栽培管理に生かしています。

「安定した栽培には病害虫対策のため、どうしても農薬の使用が必要になります。極力使用を少なくするために、使う時期や用法・用量を厳守していますし、出荷前には残留農薬検査を行っています」と同部会の小竹光浩部会長。



JA新潟みらいファーマーズマーケットいっぺこ〜とで開催された「いもジェンヌまつり」。いもジェンヌを使ったスイーツなどもあり、多くの人でにぎわいました。

近年、JAでは農作物(食品)の安全を確保し、より良い農業生産を実現する取り組み「GAP(ギャップ)」を推奨して、同部会も導入。独自のリストを作成し、安全対策に取り組んでいます。朝妻さんは「JAでは使用可能農薬のリストを作成・確認しています。リストは毎年更新し、変更があった場合はいち早く生産者に伝えるようにしています」と生産者に寄り添った支援を心掛けています。本間真人副部会長は「栽培や管理は大変ですが、お客さまの『おいしい』が励みになります。今後は生産量を上げ認知度を高めたい」と夢を膨らませていました。

みずほの一言
おいしさだけでなく、安心・安全な農作物作りへの強いこだわりを感じました。JAの提案に生産者が高い技術で応え、一緒に産地を盛り上げようとする姿が印象的でした。



JAグループからのおすすめわけ
本特集へのご意見・ご感想を募集しています。投稿いただいた中から毎月抽選で旬のJA特産品をお送りします。ハガキもしくはHPの特設ページから応募ください。

JAグループ新潟

JAグループ新潟 検索

〒951-8116 新潟市中央区東中通一番町189番地3
JA新潟中央会 総務企画部「そうだったのJA!」係 TEL 025-230-2010